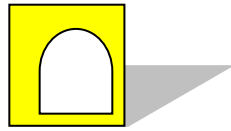


日吉台地下壕保存の会会報



第156号
日吉台地下壕保存の会

万雷の拍手と歓声の中で

会長 阿久澤 武史

年明け早々に能登半島地震と羽田空港での航空機事故があり、私たちは言葉を失いました。平穏な日常の時間が突然奪われるということであらためて思い知らされました。お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみを申し上げますとともに、罹災された皆様にお見舞いを申し上げます。

*

さて、私の勤務校の野球部が昨年夏の甲子園大会に出場し、107年ぶりの優勝を果たしました。笑顔で野球を楽しみ、髪をなびかせて躍動する選手の姿は、多くの人々に鮮烈な印象を残しました。同時にアルプススタンドを埋め尽くした大応援団も大きな話題となりました。卒業生や学校関係者が全国各地から集まり、老いも若きも肩を組んで同じ応援歌を歌う、それは強い愛校心の表れですが、違和感を持たれた方が多くいたのも事実です。

プロ野球やJリーグでも同じですが、球場やスタジアムに足を運び、揃いのシャツに身を包んで試合展開に一喜一憂するのは、私たちの日常の楽しみのひとつです。そこには自分とつながる大勢の人たちとの一体感もあります。オリンピックやワールドカップなど国際的な大会がさかんに行われ、その都度私たちは「JAPAN」を意識します。熱い気持ちで好きな選手やチームを応援するのは自然なことですが、「一体感」というものが過度に演出されるとき、素直に入り込めない自分を感じることがあります。

中国の作家・魯迅（ろじん、ルーシェン）の『藤野先生』は、高校の国語の教科書の定番教材として広く知られています。辛亥革命（1911年）以後の、近代化される社会で露呈する矛盾や旧弊を厳しく見つめ、中国近代文学の父と呼ばれています。若き日、彼は日本に留学し、仙台の医学専門学校（現在の東北大学医学部）で学びました。ちょうど日露戦争（1904年）の頃で、その時の体験を踏まえて書かれたのが小説『藤野先生』（1926年）です。

主人公の「私」は中国からのたったひとりの留学生として、仙台の医学校で学んでいます。ある日の授業

で、戦争ニュースの幻灯（スライド）が映し出されました。当然日本がロシアに勝つ場面ばかりで、医学生たちは一枚ごとに万歳を叫び、歓声を上げました。その中にロシア軍のスパイとして捕らえられた中国人が銃殺

【目次】

巻頭言【1-2p】万雷の拍手と歓声の中で 会長 阿久澤武史

報告【2-3p】日吉台地下壕保存の会会則の一部改正

報告【4-10p】日吉台中学校2年生からの質問と回答

長野の戦跡訪問【10-12p】安茂里の海軍地下壕と「語り継ぐ会」

運営委員 山田淑子

港北今昔こぼれ話【12-13p】日吉台小学校の謎の集団学童疎開 副会長 亀岡敦子

寄稿【13-14p】ウクライナと沖縄から戦争を想起する若者たち 運営委員 遠藤美幸

連載【15-18p】

☆日吉海軍・設備アレコレ(37) 日吉の朝鮮労働者 運営委員 山田 謙

☆海外の戦跡めぐり(25) 最後の日米交渉を賭けた太平洋横断飛行

(羽田〜ミッドウェー〜アメリカ)

運営委員 佐藤宗達

書籍紹介【18p】「悼むひと」

著者(運営委員) 遠藤美幸

お知らせ【19p】第17期ガイド養成講座のご案内

活動の記録【20p】2023.10月〜12月

される写真があり、処刑を見物する中国人の群衆の姿がありました。教室では「万歳！」と万雷の拍手と歓声が上がりました。その歓声は「私」の耳に強く響きました。この出来事をきっかけに「私」は医学の勉強をやめて文学の世界に入っていきます。中国の民衆の身体（からだ）ではなく、精神（こころ）の治療をすることが、「私」の（すなわち魯迅の）生涯を貫く使命になっていくのです。

教室にいたのは、医学を学び、やがて医者になる学生たちです。しかし彼らは日本の勝利に熱狂し、殺戮の場面に興奮します。同じ教室に中国人の友人「私」がいることを忘れます。戦争で湧き上がる祖国愛や集団の興奮に対して、知性の力は脆弱なものです。そこには教師もいました。人の命を救う医学を講じる彼もまた、時代の興奮の中に完全に飲み込まれています。彼らは自分たちと異なる他者の存在に目を向けることなく、排他的で暴力的な熱狂に身をまかせました。思考を停止している点で、同胞の処刑を見物（傍観）していた民衆と何ら変わりはありません。教室の中のたったひとりの中国人である「私」は、自分の姿が集団に取り囲まれて処刑された中国人と重なりました。「私」は完全な孤独と疎外感の中に身を置いていたのです。

時代や集団の熱狂の渦に巻き込まれて、知識人が正しい判断や良識を失っていく事実を私たちは歴史の中で見えています。それだけでなく、現在進行形の出来事として、ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとパレスチナの戦争の中で繰り返し目にします。民族や宗教、政治的主張やイデオロギーの対立の中で、人間の知性が力を失うことが多々ありますが、同時に知性こそが希望の光であることも知っています。

私は決して皆で声をあわせて応援することに否定的なわけではありません。私も声を張り上げて応援する側のひとりだからです。ただ、その集団を構成する純度が高く、帰属意識に酔うことで思考が停止され、自分たちと異なる他者への配慮を忘れるとすれば、そこに怖さを感じます。一体感をあおる言葉は時に力強く、あるいは美しいものです。私たちが知性的であるためには、そうしたことへの注意深さも必要だと思ふのです。

新しい年を迎えました。世界から戦争や紛争がなくなる兆しは見えません。むしろ対立の根はますます深まっていくようです。昨年経験したいくつかの熱狂や興奮を鎮めて、静寂の時間の中で今年一年の自分自身のありようを考えてみたいと思っています。

報告 日吉台地下壕保存の会会則の一部改正

昨年6月17日（土）、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎大会議室において開催された第35回定期総会にて会則の一部改正が承認されましたので以下ご報告致します。

※アンダーラインの箇所が改正点

（設立の目的）

第1条 日吉台地下壕及び海軍使用施設（以下「地下壕等」という。）を平和のための戦争遺跡として保存し、その意義を市民をはじめ多くの人々に広め、永く後世に語り伝えるため、日吉台地下壕保存の会（以下「保存の会」という。）を設立する。

（事業内容）

第2条 保存の会の事業内容は、次の各号のとおりとする。

- （1） 地下壕等の見学案内、見学ガイドの養成に関すること。
- （2） 地下壕等の調査及び研究に関すること。
- （3） 地下壕等についての資料収集及びパンフレット等の作成に関すること。
- （4） 地下壕等の保存に係る学習会、講演会、シンポジウム等の実施に関すること。

- (5) 地下壕等の保存を関係各機関に働きかけること。
- (6) 地下壕等の保存・継承のため、平和資料館等の建設推進に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、保存の会の目的達成に関すること。

(会 員)

第3条 会員は、保存の会の目的に賛同するとともに、運営のための会費を納める個人とする。

(組織及び運営)

第4条 保存の会の運営は、運営委員によって構成される運営委員会が行う。

- 2 前項の運営委員は、会員の中から推薦及び立候補により選出し、総会において承認されたものとする。

(会長及び副会長)

第5条 会長及び副会長は、運営委員会において選出され、総会において承認されたものとする。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 運営委員会の会議は、会長が招集し、統轄する。

- 2 会長は必要に応じ、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務及び会計)

第7条 保存の会の庶務及び会計は、運営委員会が行う。

(会計監査)

第8条 保存の会に会計監査を置き、会計を監査し、総会に報告する。

(総 会)

第9条 保存の会の総会は、年1回開催し、前年度の活動報告、決算の承認及び今年度の活動方針、予算の承認を行うものとする。

- 2 保存の会の総会は、会長、副会長及び運営委員の選出に係る承認を行う。
- 3 前2項に掲げるもののほか、保存の会に係る必要な事項を検討及び決定をする。
- 4 保存の会の総会は、年1回の開催のほか、必要に応じて臨時に開催することができる。

(会 費)

第10条 保存の会の運営経費は、第3条の規定により会員の納める会費及びその他の収入によるものとする。

- 2 保存の会の会費は、年間、一口2,000円とし、一口以上とする。

(顧 問)

第11条 保存の会は、運営委員会の推薦により顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、運営委員会の諮問により助言を行うものとする。

(補 則)

第12条 この会則に定めるもののほか、保存の会に関し必要な事項は運営委員会が別に定める。

付 則

この会則は、2023年6月17日から改正施行する。



慶應義塾日吉キャンパス銀杏並木

報告

日吉台中学校2年生からの質問と回答

昨年5/15(月)、日吉台中学校体育館にて出張授業を行い、参加された2年生360名より沢山の感想や質問をいただきました。今回は質問の部分について、保存の会からの回答を含め以下ご紹介いたします。

講演のテーマ：日吉台地下壕・特攻兵の話・日吉地区の遺跡

①江戸時代、中世の遺物と言うのは具体的にはどのようなものが見つっていますか。

→石造りの庚申(こうしん)塚、地藏仏が日吉5-29にあります。庚申塚の下部には「みざる、きかざる、いわざる」の三猿が刻まれています。庚申塚は港北区内の各地にあります。金蔵寺(日吉本町)の山門を入った左側に中世の板碑があります。また古墳時代ですが、日吉の丘公園下の横穴墓説明板も読んでくださいね。

更に遺物よりスケールが大きくなりますが、矢上城をご紹介します。矢上城は北条氏の家臣で小机衆に属する中田加賀守の居城です。中田氏は当初は江戸城主・太田氏に仕えていましたが、北条氏の武蔵進出に伴って臣従しました。1590年(天正18年)の豊臣秀吉による「小田原征伐」の際、小田原落城とともに討死したとも矢上城に戻って没したとも伝わっており定かではありません。現在城址は慶應義塾高校の敷地となっており遺構は残っていませんが、アーチェリー場脇に「保福寺開基中田加賀守累代墳墓之地」と刻まれた石碑があります。(新幹線日吉トンネル北側出口の上)

②数年位前にどこかの本で綱島街道には防空壕がある(今のクリエイトの辺り)と聞いたのですが本当ですか。

→綱島街道沿いの諏訪神社の反対側(日吉から向かって右手)の丘の上に古い社があり(神明社)、その斜面のコンクリートに防空壕と思われる入口があります。

③人間魚雷によって死んでしまった人は日本全体で何人ぐらいいたのか疑問に思いました。

→回天記念館(山口県周南市)によると、人間魚雷「回天」に乗り組み亡くなった方は106名です。

④地下壕の中でどのような病気になってしまったのか知りたいです。

→元兵士の方の話では疥癬(〜かいせん〜皮膚病)にかかって苦勞したという証言があります。この人は地下壕内の2段ベッドで寝ていましたが、天井から水滴がたれてきて疥癬になったそうです。それで壕外の兵舎に移りました。日吉の地下壕を築造した後、横須賀で地下壕をつくっていた第300設営隊では肺炎、天然痘、腸チフス、カゼ、ハレ物が発生したという記録があります。

⑤女性の人は戦争中どんなことをしていたんですか。

→国家予算の多くは戦争にあてられ、国民は不自由な生活を強いられましたが、どんな状況でも日常生活があり、それを支えていたのが女の人たちでした。女性の戦争へのかかわり方は、2種類ありました。そのひとつは職場から戦場に行ってしまった男性の仕事をすることでした。電車やバスの運転手、機械の操作、また軍関係の事務員として多くの若い女性が働いていました。また戦地の病院で負傷兵や病人のために働く「従軍看護婦(当時の呼び方)」は、女の子の憧れでした。もうひとつのかかわり方は、「愛国婦人会」や「国防婦人会」など、家庭の主婦を中心とする「婦人会」と言わ

れる組織に入ることでした。兵士の見送り、食品の配給、消火訓練など、行政や軍の下請けのような役割を持っていました。また女子学生は労働力不足を補うために農作業や工場に勤労働員されました。1944年以降(当時の)中学生以上は全員動員され1945年8月の終戦まで事実上学校教育は停止しました。このように「国家総動員法」1938年が施行され、政府は人と物を思い通り動かすことができました。女の人も、もちろん子どもたちも戦時体制に組み込まれていったのです。

⑥地下壕にはいつ入れるようになるのでしょうか。

→慶應義塾大学の許可を得て、月2回(第2水曜日・第4土曜日)定例見学会を開いています。当面の定例見学会は7月22日(土)、8月9日(水)、12日(土)で、いずれも午後1時半からです。事前予約制で30名程度をご案内しています。参加費は千円です。夏休み見学会もあります。7月29日(土)10時～、8月5日(土)10時～です。予約は喜田(きだ) Tel045-562-0443で、午前か夜に電話してください。午後はいません。学校関係の方も40名(1クラス程度)を上限にお受けしています。

⑦200人位入れる地下壕を作ったりして対策してたので、私も空襲のために何かしてあげたいと思いました。地下壕に避難した人はどうやって生活していたのか気になりました。

→日吉台地下壕は空襲の時などに逃げ込む防空壕ではなく、戦争を進めるために海軍の兵隊が活動していたところです。生活はキャンパス内の寄宿舍、第一校舎の南側、キャンパスに隣接したカマボコ兵舎などで寝泊まりをしていました。地下壕内にも2段式ベッドがありました。

⑧戦争を行っていたころ、市民はどうやって逃られたのだろうか。

→敵の飛行機が飛んできたときに、空襲警報のサイレンが鳴って防空壕に逃げ込みました。また疎開といって、空襲を避けて地方の親戚や田舎に引越した人達もいました。

⑨特攻する人はあらかじめ遺書を書くのでしょうか。もし書いていたならばどのような事を書いているのか知りたいです。

→ほとんどの人は書いていました。遺書は今もたくさん残っています。ぜひ調べてみて下さい。慶應義塾大学出身の上原良司の遺書「所感」は『きけ わだつみのこえ』(岩波文庫)に載せられています。

⑩防空壕って空襲のときどんな音がしましたか。

→日吉の暗号兵だった栗原啓二さんは1945年5月に、伊豆下田の人間魚雷「回天」の基地に移りました。そこでは爆弾が近くに落ちてすごい音と振動だったと言っていました。日吉では、そういう経験はなかったそうです。

⑪戦争に行く人達は何かもらえたのですか。例えばお金とか称号だとか。(中略)戦争で町はどのくらい変わったのか気になりました。

→兵隊になると給料が出ます。戦地で勤務すると追加金がつきます。学生出身でない将校は職業軍人ですから、退職後には軍人恩給という年金をもらいました。普通の兵隊も戦死すると家族は少しですが遺族年金をもらいました。

戦死すると軍隊の階級が一つ上がります。私の伯父さんは伍長から軍曹に昇級しました。「功六級」「勲七等」という二つの勲章をもらいました。町は空襲で焼け野原になってしまいました。

⑫(平和講演会を聞いて僕はアメリカを奇襲したのにどんどん負けていって無駄に人が死んでしまうのはただの無駄に感じます。) どうして途中でやめなかったんでしょうか?もしかしたら偉い人がプライドを維持するためずっと国民が戦争を続けていたんですかね。

→1943年5月に連合艦隊司令長官になった古賀峯一大将は就任の時「勝算は三分もない」と訓示しました。しかし戦争を継続し、飛行機事故で殉職しました。1944年7月にサイパン島を米軍に奪われ日本本土空襲がせまり、日本の敗戦は決定的となりましたが戦争は継続されました。1945年2月に、近衛文麿・元首相は天皇に「敗戦必至、非常の御勇断(講和交渉)を」と訴えましたが、受け入れられませんでした。天皇は8月14日にポツダム宣言受諾を決定し、ようやく戦争は終わりました。

軍や政府上層部は何を守ろうとしていたのか。これを問い、考えることが過去の歴史に学ぶということですね。いろいろな本も出ています。図書館でさがしてみてください。

⑬ほかに日吉に戦争の痕跡はありますか。

→大聖院(箕輪町3-12)境内に空襲で焼けた樹木が4本あります。「生き証人」としての戦災樹木は日本各地で戦争の恐ろしさを語り続けています。また神社やお寺には戦没者をいたむ慰霊碑や忠魂碑があります。お寺の墓地には戦死者のお墓があります。これも戦争遺跡のひとつですね。

⑭爆弾が落ちた時、放射線的な体に害のあるものとか出たりしたんですか。

→日本軍は毒ガス兵器・細菌兵器を開発し中国では実際に使用しました。それで米軍が毒ガス弾を落とすことを予想して、防毒マスクを配布していました。しかし米軍は対日戦争では使いませんでした。でも大量に放射線を出す原子爆弾を使用しました。広島・長崎以外には原子爆弾は使用されていないので、放射能被害はありません。

⑮人々が避難していたところはどこですか。

→各家庭の庭先や、学校・公園には地面を掘り下げた防空壕が作られ、空襲警報が発令されると避難しました。

連合艦隊司令部以外の地下壕(穴掘り中の場合も)に、日吉の住人が避難させてもらったという証言があります。台地の下の方に横穴を掘った住民用の防空壕もありました。一部、現存しています。

一方で、1941年に改正された防空法では、空襲時の避難禁止と消火義務が規定されました。ウクライナで見られるような地下鉄への避難も禁止されました。

⑯上の人達に「死んでくれ」と言われて「いや」と言いづらかったのはわかりましたが、それでもお願いを断った人はいたんですか。



柿の実にヒヨドリ

→特攻に参加する人は志願(自分から行きますと表明すること)の形をとっていました。一方で、本音が言えない軍隊では事実上の強制だったと話す元特攻兵の方もいます。特攻作戦の記録文書には「特攻隊員の士気低下」「機体不良や敵艦が見つからないと言って引き返す者が相当いる」と書かれています。事実上の特攻拒否だろうと思います。

⑰戦争が起こる前や戦時中に港北区や近くに中学校はあったのでしょうか。またそのとき学校では何を勉強していたのかも気になりました。

→今の3年制の中学校は戦後の制度なので、戦前はありません。戦前の「中学」は5年制で男子のみ、女子は5年制の「女学校」でした。港北区内の高校のいくつかは、戦前はこの「中学」や「女学校」だったと思います。

⑱あれ程の防空壕を一体誰が提案し、あの時代に気づかれずどうやって作ったのが気になりました。

→日吉台地下壕は連合艦隊司令部を日吉に移転させるにあたり、敵の攻撃を避けるために海軍が作りました。

アメリカ軍が撮影した航空写真には地下壕工事で排出された大量の土砂が丘陵地周辺に写っているのを、

何かを作っていることはわかったかもしれませんが、近隣住民の中には、工事の邪魔になる為、海軍に立ち退きを迫られたり、地下壕を掘った土で畑が埋まってしまった方達もいました。

⑲日吉だけでもすごい攻撃を受けたのに、他の県はどう対策をしたのかなって気になりました。

→一般の人たちは防空壕を作ったり防空訓練をしました。

内容は防火訓練を中心に、退避訓練、救護訓練、お米の炊き出し、防毒マスクの装着訓練などです。

しかしB29爆撃機に落とされた焼夷弾は爆発すると油が辺り一面に広がり火の海となるため、人の力で消火できるものではありませんでした。また軍隊が高射砲陣地(地上から飛行機を撃墜する大砲)を作ったり、兵隊を配備して空襲に備えました。日本全国くまなく空襲されました。爆弾だけでなく戦闘機の機銃攻撃もありました。終戦直前の8月14日にも大阪、秋田、和歌山、小田原、熊谷、川崎、千葉などが空襲され多数の死者も出ています。

⑳地下壕はどれほどの衝撃に耐えられたのでしょうか。

→日吉台地下壕は地下30mに建設されているので、地上に爆弾が落ちてもほぼ衝撃はなかったと思います。

地下壕の出入口はT字型にして左右に出入口を作ることにより、近くに落ちた爆弾の爆風が壕内に吹き込むのを防ぐ構造になっていました。また出入口の前に土のうを高く積み上げて壁のようにしているところもありました。

㉑モールス信号は聞き逃したときはどうしていたのか気になった。

→モールス信号を聞き取ることも自体も困難なことだったと思います。聞き逃したこともあったかもしれませんね。

1944年10月のフィリピン沖大海戦の時、アメリカの空母主力部隊の動きをつたえる重要な通信を現地艦隊司令部は受信できず、作戦上、大きな判断ミスをしてしまいました。

㉒質問する時間があつたのに恥ずかしくて言えなかったのでここで質問させていただきます。1) ガダルカナル島での戦闘でどれくらいの兵力を失ったのか。

→戦死者は約2万2千名(餓死者1万5千名、純戦死者5千6百名)です。

ガダルカナル島ではミッドウェイ海戦に敗れて一カ月後、日本海軍が飛行場建設をはじめ1942年8月5日に完成しました。しかし二日後、米海兵隊2万人が上陸し、日本

海軍陸戦隊 250 名、飛行場建設要員 2500 名はジャングルに退避します。これから「ガ島」攻防戦は半年続き、残存兵約一万の撤退(1943年2月)に成功しました。しかし撤退までにこの島を巡る空戦、海戦が何度も起きます。第一次ソロモン海戦、第二次ソロモン海戦、サボ島沖海戦、南太平洋海戦、第三次ソロモン沖海戦等。これらの戦いで多くの航空機と艦船を失いました。

2) 桜花を運んだのは一式陸攻以外にあったのか。

→ありません、一式陸上攻撃機だけでした。搭載した「桜花」は一一型。開発中の桜花二二型は、一式陸攻より性能の優れた「銀河」という陸上攻撃機に搭載することを予定しましたが、桜花の開発が間に合いませんでした。

3) 零戦の特攻の時、モールス信号はどのようにして送っていたのか。

→操縦席内にあった通信機の送信キーを操作したのだらうと考えられますが具体的にどのような操作だったのかはよくわかりません。

4) 零戦だけが特攻をし、天山や隼星、九九式などは特攻をしなかったのか。

→零戦以外の航空機も特攻攻撃に使われました。もちろん艦上攻撃機天山、艦上爆撃機隼星、九九式艦爆、九七式艦攻等。また陸・海軍とも戦争末期には殆んど機種が特攻に使われ、スピードの遅い練習機までもが特攻攻撃をしました。

5) P51 に対抗する機体は開発されたのか。

→開発されていないと思います。硫黄島が米軍に占領されてここから B29 爆撃機の護衛として P51 が本土空襲に来るようになって、この戦闘機に対抗できる性能の機体は日本軍にはなかったのではないかと思います。

(あえて言えば日本海軍最後の正式戦闘機である「紫電改」をあげておきます。)

どうやって考えたら「負けそうになったら特攻」の考えが生まれたのか。

またなぜ実行したのかが気になりました。

→飛行機が敵の艦船に体当たりすることが最も攻撃効果がある、人が魚雷を運転すれば命中確実であると軍の上層部は考えました。軍の精神主義(精神力で兵力や装備の劣勢を挽回しようとする発想)が反映されていた面もあると思います。

㊸地下だったので電波は大丈夫だったのか気になりました。

→寄宿舍の前に電柱 3 本をつなげた柱を立ててアンテナ線を張っていました。そのアンテナ線を地下の受信機まで引き込んでいました。

㊹防空壕の封鎖区域には何か重宝されるものがあるんですか。

→封鎖区域は地下水の出水や崩落の危険があります。危険なので立ち入り禁止の意味で封鎖しています。

㊺なんで戦争というのは起きてしまうのか本当に疑問に思いました。

→そうですね。一緒にずっと考えていきたいですね。

㊻地下壕中はどれくらいの人数が入れるんですか。

→24 時間体制で稼働していた電信室・暗号室は、3~4 交替(1 グループが 6 時間もしくは 8 時間で次のグループに交代する勤務体制)で、延べ 200 人が働いていました。常時だと 60 人位になります。

㊼大学でまともに授業が受けられなかったように小学校・中学校で授業内容などに何か影響はありましたか。

→大人になって兵隊になるための軍国教育(国のために戦争に行くのは当然。戦場で死ぬのは名誉なことだという価値観)が取り入れられました。また勤労働員といって

勉強せずに農家や工場に行って仕事のお手伝いをしました。他にも学童疎開といって空襲を避けるために親元を離れて地方のお寺などに避難して集団生活や勉強をしました。食料増産の為に皆で公園や校庭に畑を作ったという話も聞きます。

⑳防空壕に避難している時間は長くて何日でしたか。

→第一校舎脇の待避壕では空襲警報が終わると校舎にもどっていました。中にいたのは数時間くらいでしょうか。連合艦隊司令部地下壕でも作戦室と長官室は空襲が終わるまでです。これ以外は勤務場所なので終戦まで地下壕に人はいました。同じ人がずっといたわけではなく、交替勤務だったり昼間だけだったりしていました。

㉑日吉台小学校で戦争のなごりのようなもので残っているものはありますか。

→「文化の鐘」のエピソードをご紹介します。

「文化の鐘」は校歌の2番に～文化の鐘は響くなり～と歌われ Wikipedia によると、「時刻を刻む鐘であり本校のみならず町のシンボル。戦時中の1941年、金属回収令を受け文化の鐘も押収対象になったが、当時の学内関係者が協同して隠し通した。謂わば、伝説の鐘である。」となっているのですが、現物には「贈 昭和廿参年度卒業生」と記されており、真実はわかりません。昭和20年(1945年)に戦災により校舎が焼失したことに関係するのかもしれませんが、それが分かる資料は残念ながら見つかりませんでした。

(平成28年6月30日 学校だより「ひよしだい」石坂由美子校長の巻頭言より)

㉒特攻兵器の名前の由来はありますか。

→よくわかりません。「回天」は戦局を転換させる、「桜花」は桜の花のように潔く散る、「震洋」は太平洋を震撼させるということでしょうか。一般の航空機の愛称の付け方は一応ルールがあって、爆撃機は「星」、偵察機は「雲」、攻撃機は「山」、特殊攻撃機は「花」を使いました。

㉓今はふさがれている地下壕に入りたいと思った。どうして入れる地下壕と入れない地下壕があるのか不思議。

→日吉台地下壕の4つの地下壕のうち、入れる地下壕と入れない地下壕のお話をします。

入れる地下壕…連合艦隊司令部地下壕。

1989年、慶應義塾教職員と地域住民が一緒になって戦争遺跡である地下壕を調査研究・保存しようと活動を始めました。2001年に慶應義塾大学による壕内整備が進み、安全に見学できるようになりました。

入れない地下壕は危険のため閉鎖されています…慶應義塾キャンパスの他の地下壕、日吉の丘公園下の艦政本部地下壕。※地下壕に勝手に入るのは危険です。

㉔地下壕を作るにはどのくらいの時間がかかったのか教えてほしいです。

→連合艦隊司令部地下壕は約3ヶ月です。1944年8月15日設営隊と呼ばれる軍の施設を作る専門部隊が編成されました。実際に工事が始まったのは9月頃で、11月には電信室・暗号室の運用が始まりました。昼夜を問わない突貫工事でした。

㉕日吉台地下壕は戦争が終わってから使われたことはありますか。

→使われたことはありません。

④地下では空気は外から取ることができたと聞きましたが、トイレなどはどうしていたんですか。

→電信室・暗号室の近くに地下水を使った水洗トイレがあります。

原則、トイレをはじめ生活する場所は地下壕の外にあります。第一校舎の南側、カマボコ兵舎などです。

最後になりましたが、感想文で「地下壕」と「防空壕」を混同していらっしゃるケースが散見されたので、改めてご説明させていただきます。

★「地下壕」と「防空壕」

「防空壕」とは空襲を防ぐ地下施設のことです。ただ防空壕というと空襲の時にだけ逃げ込む場所という意味合いが強い言葉です。しかし日吉の大部分の地下壕は空襲のない時も、いつもそこで軍人が勤務していました。それで私たちは防空壕とは言わず「地下壕」と呼んでいます。とはいえ一部の地下壕は空襲の時に避難するためにだけ使われていたので、他と区別して「待避壕」と呼んでいます。

★おまけの話——「カマボコ兵舎」

日吉には兵士の住居用に「カマボコ兵舎」とよばれるものが3~4棟ありました。海軍の正式名称では「木造覆土(ふくど)式円型標準兵舎」といって「木造アーチの半地下式」とも説明されています。収容人員は87名でした。これを当時の兵隊は「カマボコ兵舎」と呼んでいました。カマボコ型をしていたからです。

敗戦後、アメリカ軍は日吉キャンパスに来て校内に兵舎をたくさん建てました。これは鉄板製ですが半円筒型でした。日本人はこれも「カマボコ兵舎」とよんでいました。

長野の戦跡訪問

安茂里の海軍地下壕と「語り継ぐ会」

運営委員 山田淑子

晩秋でありながら気持ちのいい小春日和が続いた11月14日から16日にかけて長野市安茂里小市の大本営海軍部(海軍軍令部)地下壕に山田譲と行ってきました。

[安茂里の大本営海軍部壕]

長野といえば松代の陸軍大本営などの地下壕が周知のところですが、実はそれだけ



安茂里海軍壕

でなく海軍中枢も移転のため1945年6月頃に地下壕を掘り始めていました。それも日吉台地下壕を築造した軍令部直属の精鋭部隊である第300設営隊が、安茂里小市の大本営海軍部壕も手掛けていたのです。戦争末期の重要な軍事施設であるという点で、日吉とのつながりを感じました。この地下壕は、千曲川を挟んで松代の大本営陸軍部象山壕、天皇の御座所などが見渡せる山のふもとに造られています。このことにより、海軍も本

土決戦に備えて陸軍大本営地下壕とは少し離れた地点で、軍事状況を見通しながら戦うつもりであったのだろうと思いました。

安茂里小市の海軍壕は地層が凝灰岩(現地では白土と言うそうです)で、もろいため現在崩壊により一部しか見学できませんが、手掘りのツルハシの急造の生々しさを表しています。

[昭和の安茂里を語り継ぐ会]

安茂里には、昭和の安茂里を語り継ぐ会(以下「語り継ぐ会」)の会員の方が土地と建物を提供された資料館があります。大本営海軍部壕見学のために、まず案内されたのがこの資料館で地元の「語り継ぐ会」のメンバーの方々が、自ら作られた農作物を使ってのごちそうで歓迎を受けました。

「語り継ぐ会」は、高校教師であった土屋光男さんが長野にある戦争遺跡を調査研究していくなかで安茂里の海軍壕を知り、地域の方に聞き取り調査することで戦争当時の旧安茂里村の塚田伍八郎村長の日記がみつかりました。そこには「6月21日海軍大尉から洞穴を掘りたいので宿舎を頼むと申入れがあった。」と記載され、また錨のマークの付いた食器や水筒などが残されていました。大きな金庫まで残っていました。立派な長屋門を構えた村長宅(現存しています)やお寺、地区住民の自宅が海軍の宿舎になりました。この事実から調査聞き取りをしながら、地域の住民と深く結びつき「語り継ぐ会」を結成し、調査・研究を続けています。現在、地下壕の保存整備、見学案内、資料館の運営をしています。「語り継ぐ会」のメンバーは日頃農業などに従事し、平均年齢は70才を上まわっているようですが、地元の戦争遺跡を負の遺産であるにもかかわらず地元の宝のように大切にしています。保存継承には年齢に関係なく全力を注がれていて、自らの使命のような厚い情熱が伝わってきました。



安茂里 学習会



安茂里資料館 海軍食器

[交流会]

「11.15日吉台と安茂里両海軍壕の学習交流会」では、ウクライナとガザの虐殺を悼む黙祷から始まりました。老若男女50人程の参加があり、私たちから日吉台地下壕の紹介、これに基づく質問、意見や感想が述べられました。特に、掘り始められたばかりの安茂里の地下壕と違って、実際に使われ戦艦大和の出撃命令も日吉から出されたことに多くの関心が寄せられました。交流会には語り継ぐ会の方々、大学生(大学は東京ですが実家は長野)、近くの工務店主でレストラン社長の方、元市議会議員などから発言があり、地元を大切に思い安茂里の地下壕の保存を支えていく力強さがみなぎっていました。

[上山田温泉一肢体不自由児の学童疎開]

私たちは、2泊3日の安茂里海軍壕見学と交流会出席のため、長野県上山田温泉に宿泊しました。土屋さんの紹介で宿を決めましたが、そこは戦時中全国唯一の肢体不自由児の学童疎開先であったことを宿の女将から伺いました。東京都光明国民学校で学童疎開の行政支援が行われず、現地疎開と称して世田谷の寄宿舍に寝泊まりしていました。戦況が悪化し疎開先を探していましたが難航し、当時上山田温泉の上山田ホテルの御主人(上山田村の村長でもありました)が学童たちを受け入れました。その後、東京の空襲で世田谷の寄宿舍は焼失し、帰るところも無く終戦後4年にわたり学童た

ちを支えてくださったことを聞き感動しました。戦争中、人権さえも無視されるような時代でありながら、この事実を知ったことは大きな収穫でした。

[地下壕の延長工事]——山田譲の補足

淑子さんは同行しなかったのですが、私は土屋さんたちに海軍壕の山の裏側に案内していただきました。計画された地下壕は相当な規模のはずです。第300設営隊の山本将雄隊長は「軍令部の秘命により……松代大本営用地下工事に対応して、之と別個に海軍側主脳部二千名の入るべき大工事の施工に着手していた。」(『海軍施設系技術官の記録』)と書いています。そして現存する海軍地下壕は、崩落している先がY字型に分岐していたそうです。この右側の分岐の延長線の先と思われる所に案内していただいたわけです。そこは犀沢という細い沢を登って行ったところでした。両側を山に挟まれた谷地ですが少し広い平地になっていました。地下壕を掘るには山の両端から掘るのが早いわけです。また地上に工事関係の設備小屋や爆薬庫も必要です。排土を出すスペースも必要です。そういう条件は満たしている場所のようでした。

とはいえ、当時の段階では安茂里の海軍地下壕は試掘段階だったのだらうと思います。第300設営隊も山本隊長が来たとはいえ、先遣隊が来ただけで本隊はまだ横須賀の野島、夏島の大掩体壕を造っていました。それにしても長野に大本営陸海軍部と天皇を移すという本土決戦体制は、ソ連の参戦を全く想定していません。ソ連が日本海を越えて新潟に上陸してきたら長野はすぐそばです。「本土決戦」など本当に絵空言と思わざるをえません。

(会報147号2022.11.26.記事「第300設営隊その後——最後は長野で大本営海軍部地下壕掘削」、『資料集2 日吉海軍・設備アレコレ』を参照)

港北今昔こぼれ話

日吉台小学校の謎の集団学童疎開

副会長 亀岡敦子

集団学童疎開とは

アジア太平洋戦争開戦から2年経過した1944年頃には、戦況は次第に不利になり、政府はアメリカ軍の本土爆撃対策をとらざるを得なくなりました。そのひとつは大都市や工業地帯の子どもたちを安全な地域に、一時的に集団移住させることです。政府は、農村部の親戚や知人を頼る縁故疎開を推奨しましたが、それができない児童のために、学校あげての疎開、「学童疎開促進要綱」を、1944年6月30日に閣議決定しました。

第一陣の対象地域は、東京、横浜、川崎、横須賀、名古屋、大阪、神戸、尼崎、門司、小倉、戸畑、若松、八幡の13都市で、東京以外はその県内で疎開を完結させるようにという計画でした。後に、京都、舞鶴、広島、呉の4都市が追加されました。これらからは軍事的意味が感じられます。

対象児童は、公立小学校(当時の名称は国民学校初等科)3年生から6年生で、まだ幼い1,2年生は対象外でした。目的については、若い生命を惨禍から守るためとはいえながら、次代の戦力の温存のための男子と、皇国の母となるべき女子の生存が何より大事であったことは明らかでしょう。

政府は驚くべきスピードで、集団学童疎開の詳細を決定しました。地方の学校、寺社、公民館などを疎開学校とすること、同行教職員の人数と仕事内容、受け入れ先の義務、保護者が負担すべき生活費などです。そして、8月中には第一陣は疎開をほぼ完了したと言われています。

学校ですから授業も行われましたが、軍の主導で軍事訓練などもあり、大変に厳しいものであったようです。食料は少なく、育ち盛りであるにもかかわらず常に空腹だったということです。衛生状態も悪かったため、ノミやシラミに苦しめられたそうです。過酷な環境におかれると、人は残酷で不寛容となり、子どもたちにとって辛い体

験だったようです。

学童疎開が終わり、それぞれの家族の元に帰れたのは、敗戦後ですから、およそ1年間、10歳前後の子どもたちが、心身ともに過酷な状況に置かれていました。しかし、家族が空襲で亡くなったり、帰るべき家は焼失したりと、戦争は終わっても更に過酷な状況におかれたのです。まれに恵まれた環境もあったようですが、多くは思い出すのも辛い、体験であったそうです。ただ、学童疎開体験者も、80歳代となり、再び戦争をおこしてはならない危機感から、辛い体験を語り、書き残す人もいます。

日吉台国民学校初等科の集団学童疎開について

横浜市も集団学童疎開の対象都市となり、中心部の小学校は1944年8月には、箱根や小田原などに疎開したそうですが、港北区は東急東横線が開通して交通の便が良くなったとはいえ、まだまだ人口の少ない農村地域でした。従って区内の大綱小学校、高田小学校、中川小学校(現都筑区)などは、学童疎開をしていません。ところが、日吉台小学校は、第一陣として、3年生から6年生までの児童約120名が疎開しました。普通のケースと明らかに違うのは、疎開先が校区にある港北区下田町の真福寺と、隣接する港北区高田町の興禅寺である点です。自宅にいては危険だから疎開をするはずですから、まるで意味がなく、子どもたちは、寂しく悲しいばかりでした。そして、9月には海軍省人事局功績調査部が霞が関から移ってきました。児童たちは、1940年に建てられた東洋一と評された校舎で学んでいましたが、疎開したために使えなくなり、9月からは軍人が教室を使用したのです。立派な校舎は45年4月の空襲で全焼しましたが、それまでの数か月、自宅通学の少数の1,2年生と軍人が、奇妙な同居をしていたのです。ただその頃を知る知人は、学校で軍人の姿は見かけなかったと言います。日吉台小学校が使えなくなった功績調査部は、校庭に頑丈な三基の小山のような防空壕を残したまま、山梨に移動しました。いつからかは不明ですが、週末には疎開先から帰宅が許されていたそうです。それでも、他の学校と同様の集団生活を続けていたことに、何の利点があるのでしょうか。男の子は立派な軍人になる、と答え、女の子は看護婦になって傷病兵の手当てをする、と答える。そんな子どもたちに育てたのは、誰で、何のためでしょうか。児童生徒の戦争の傷跡も、取り組むべき課題だと思います

寄稿

ウクライナと沖縄から戦争を想起する若者たち

運営委員 遠藤美幸

次の戦争が起こって「当事者」にならない限り、戦争を知らない非当事者が次世代の非当事者に戦場体験を伝えることがあたりまえの時代になった。そのような中で非当事者が戦場体験を引き受けるとはどういうことか、非当事者として体験を想像するにはどうしたらよいのだろうか。

毎日メディアに溢れる「ウクライナ戦争」やガザ地区での惨状に目を覆いたくなる反面、震災も戦争も当事者でなければ時間の経過とともに次第に関心が薄れていくのが世の常だ。これはミャンマーのクーデターの日本での報道がぐっと少なくなったことから容易に想像できる。悲しいかな、自国の「戦争」に関心をもつ日本人はこの国では少数派だ。その少数派の中でも若者はさらに少ない。若者に戦場体験に関心をもってもらうにはどうしたらよいだろうか。

先日、あるzoom学習会で、30代前半の「若手研究者たち」に、戦場体験の継承について「若者の視点」から語ってもらう機会があった。

さっそく31歳の大学院生が口火を切った。

「『若い世代』という括りをやめてもらえませんか」

彼女がいうには、そもそも自分は「若い世代」の代表ではないのでこのような括りで発言を求められることに困惑するというのだ。もっともな意見である。彼女のポジショナリティも同世代の中で決して多数派ではない。31歳の彼女も同世代あるいはその下の世代に向けてどのように戦場体験を継承すべきかを日々悩んでいるという。私はそれ以来、気をつけて若い世代ではなく「次世代」という言葉を使うようにしている。

最後に彼女は次のように述べた。

「ジェネレーションに関係なく、自分たちが現代社会の中で無意識のままに『加害者』になっていないかを考えることが重要です」

例えば、社会において構造的に外国人蔑視(差別)をしていることはないか、というような自らへの問いかけが戦争を考えることに繋がるというのだ。確かに戦争の根っこにはあらゆる差別が潜んでいる。彼女の言葉にハッと、目から鱗の学習会であった。

大学の授業で、学生に非当事者がどうすれば戦場体験を継承できるかと聞いてみると、女子学生は「友人を作ることです」と答えた。大学に入って沖縄出身の友人が来て、今までも沖縄のことは知っていたつもりだったが、友人の故郷の沖縄のいまの問題を初めて身近な問題として捉えられるようになったそうだ。友人の口から語られる言葉に感情が揺さぶられ、沖縄の歴史を真剣に学ぼうと思ったというのだ。

男子学生は、ウクライナからの留学生と話す機会があって、「これからウクライナのためにどうしますか?」とウクライナの学生に聞いたそうだ。ウクライナの留学生は「いまは日本で生きていくことで精一杯で先のことが考えられない、不安な気持ちでいっぱいです」と答えた。男子学生は自分がいかに上から目線であったかとハッと、いま、学生生活で困ったことがないか、同じ学生が目線でできることをしたいと思ったという。

前出の大学院生や二人の大学生たちは自らの足元の身近な「戦争」に触れる機会をもったことで、心を揺さぶられる体験をし、今の状況の中で自分が出来ることを実践している。

心が揺さぶられる体験が次世代に戦場体験を伝えるきっかけになるのだ。戦場体験者がほとんどいなくなったいま、日吉キャンパスの地上施設や連合艦隊司令部地下壕の見学は心揺さぶられる体験として最適である。戦時中、軍隊と縁遠いはずの大学キャンパスまでが軍の施設として利用され、学生は戦場へ向かった。この日吉から特攻命令も発令されている。学生らがこの地下壕に入ると今の自分と過去の戦場がふと繋がる瞬間に出会えるはずだ。最初の出会いが小説でも映画でもアニメでもよい。ワクワク、ドキドキした楽しい対象であってもよい。戦場体験の継承には心が揺さぶられる感情がものをいうのだ。

私は、20年以上戦場体験者の聞き取りを行ってきたが、元兵士の戦場体験はそのまま継承することは絶対にできない。戦場体験者の生き写しのようには体験談を継承することは不可能だけでなく、継承の意味をなさない。一人の元兵士の体験談や叙述は一つの素材(歴史史料)に過ぎなくて、その素材をその時の社会的、政治的状况に即して個人の思想に落とし込んで、はじめて歴史事実が歴史化される。素材を思想に落とし込む時に心揺さぶられる瞬間が誰にでもあるはずだ。そうした情動が歴史を紡ぎ継承する原動力になる。戦場体験者の体験談や叙述などの史料(映像も含めて)をただ単に収集し整理するだけでは戦場体験を継承したことにならない。それらを現在の状況の中でどう生かして行くかが継承の最も重要な課題である。

歴史的事実だけでなく、語り手の複雑な気持ちや苦しみや悲しみの「声」に耳を傾けながら、今まで聴いた戦場体験の数々を私の言葉で自分の中に生まれてくる感情とともに伝える「歴史実践」をこれからも次世代とともに行っていきたい。

連載

日吉海軍・設備アレコレ【37】日吉の朝鮮人労働者

運営委員 山田 譲

見学会では「ここにも朝鮮人労働者がいたのですか」と聞かれることがあります。これについて現在、確認できることを書いておこうとおもいます。

日吉の海軍地下壕は第300設営隊、第3010設営隊の他に、鉄道工業(株)を協力作業隊とする柳瀬隊が隧道工事をしたと、伊東三郎氏(元第3010設営隊隊長)が『海軍施設系技術官の記録』に書いています。この鉄道工業(株)は朝鮮人徴用工を政府から多数割り当てられていたそうです(ウィキペディア記事)。日吉でも鉄道工業(株)の下で朝鮮人労働者が働いていました。ただ、それが強制連行の徴用工なのか、もともと在日だった人なのかはわかりません。また土建業は下請け、孫請けという仕組みで、鉄道工業(株)は元請けです。ですので鉄道工業の作業員といっても、大部分は鉄道工業の下請けで働いていたということです。

① 連合艦隊司令部元電信兵・保坂初雄さんの話

2016年11月1日に山田譲と山田淑子は日吉の電信兵で水兵長だった保坂初雄さん(故人、当時89歳)に体験談をうかがいました。保坂さんは1944年9月29日の連合艦隊司令部日吉移転と同時に日吉に着任しました。当初はマムシ谷奥の出入口の中の築造途中の地下壕にいたそうです。「穴の中は丸太の木組みがしてあった。穴の先の方を朝鮮人が掘っていて、2人でモッコをかついで自分たちの後ろを通った。『朝鮮、朝鮮と馬鹿にするな』と叫んでいた。朝鮮人は15人くらいだった。コークスを燃やしてツルハシの先を叩いて尖らせていた。焼きの入れ方をわかっていた。」と話されました。(会報130号記事)

この朝鮮人労働者は日本語を話していたので、元から日本にいた人の可能性が高いとおもいます。また刃物の焼き入れ方法をわかっている熟練作業員です。保坂さんは連合艦隊司令部の要員ですので、この作業現場はまちがいなく連合艦隊司令部地下壕です。とはいえ地下壕掘りの作業員は、ここが何の地下壕なのかは全く知らなかったに違いありません。



保坂初雄さん

② 第3010設営隊・元主計長御厨文雄氏の話

慶應生協ニュース51号(1990年4月10日)に寺田貞治さん(当会の事務局長だった方、故人)は、第3010設営隊主計長だった御厨文雄氏の聞き取り記事を書いています。御厨氏が日吉に来たのは昭和20年2月です。連合艦隊司令部地下壕は前年に完成していますので御厨氏が日吉で勤務した時期は、人事局地下壕と航空本部等地下壕、艦政本部地下壕を掘っていた時期です。しかし着任以前のことも聞いていたようです。

「(第3010設営隊)の他に、民間の鉄道工業(株)から派遣されてきた人、2000人が働いていた。……設営隊は、最初に寄宿舍の改造をしたがこれは第3010設営隊のみで行った。しばらくして鉄道工業の人たちが来たが、この人達が相当な馬力で、地下壕を昼夜三交替制で掘り、地下築城を進めていた。鉄道工業が連れてきた人のうち、少なくとも朝鮮人労働者が700人くらい居たよう

三木組事務所
朝鮮人飯場地図

であった。朝鮮人労働者には難工事をやらせたようだった。その上、待遇もひどかったらしい。御厨氏は、現場に行くと面倒なことが起こる恐れがあるので、行かなかったという。」

この記述によれば連合艦隊司令部地下壕の築造の時期(1944年9月~11月)に、すでに鉄道工業は日吉に来ていたということになります。他方、上記の伊東三郎氏の回想記では、連合艦隊司令部地下壕の「一応の完成の運び……を機に、第300設営隊は次の任務地に移動し、相前後して人事局の地下施設設営のために……柳瀬隊(隊長海軍技師柳瀬珠郎)が民間建設業者鉄道工業(株)を協力作業隊にして駐屯してきた。」と書かれています。この「相前後して」というのは微妙な言い方ですが、緊急の突貫工事だったのでつぎ込める作業隊はどんどん入れたということのようです。保坂さんの話とあわせると10月時点で鉄道工業は日吉に来ていた可能性が高いようにおもいます。

③元軍令部第一部長・富岡定俊氏と伊東三郎氏の部下だった貴島一男氏の話

1969年に慶應高校1年生の生徒たちは、日吉祭の企画として日吉の海軍地下壕の測量と聞き取り調査をしました。その成果が『わが足の下——日吉地下施設の秘密』という冊子にまとめられています。これについて私たちは2017年8月1日と9月16日に、中田晃氏ほか4人の元生徒の皆さんのお話を聞きました。(会報133号記事)

この冊子には「召集された兵、朝鮮人からなる数部隊があった。」と書かれています。これを話したのは富岡定俊氏で「朝鮮人で亡くなった人の数も覚えていると言っていた」そうです。富岡氏は終戦時は軍令部第一(作戦)部長の少将でした。その前は南東方面艦隊参謀長で所在地だった「ラバウルの(大地下壕の)態勢にならえ」と説いて回ったと自著『開戦と終戦』に書いています。それで日吉の地下壕にもくわしかったようです。

「工事による犠牲者は各部隊それぞれ二人、計六人」と書かれているので部隊数は3隊となり、伊東三郎氏の回想記と一致します。この話は伊東三郎氏の部下だった貴島一男氏の話だそうです。貴島氏は「土木・建築の人」とのことで、軍人でなく技師だったのかもしれませんが。この話からすると鉄道工業の朝鮮人労働者が2人亡くなったとおもわれます。

④日吉5丁目宮前公会堂付近のSさんHさんの話

私たちのガイド仲間だった故長谷川崇さんは日吉5丁目在住で、近隣の方たちからいろいろ聞き取りをしていました。その中でSさんは「宮前に住む多くの朝鮮人が仕事についていて夜な夜な農家に食料をねだりに来ていた。」と話されていたそうです。Hさんは「夜になると朝鮮人が来るとニギリ飯をあげた」そうです。この人たちは日本語が話せず手まねで物を食べる格好をしたという話もあるので、日本に連れてこられて間もない人ではないかとおもわれます。

⑤艦政本部地下壕を築造した三木組の現場監督の息子・石森一成氏の話

慶應生協ニュース50号(1990年1月10日)に寺田貞治さんの石森一成氏への聞き取り記事が書かれています。石森氏の父は清水建設に勤めたあと日吉の三木組に現場監督として入ったそうです。「日吉では地下壕を作るのに従事し」「三木組の事務所を…赤門坂下の所に設け、地下壕を掘り始めた。…韓国人の飯場があり、三木組が連れてきた150人ほどの人がいた。安田春雄という韓国人の親方が、韓国人の面倒を見ていた。」「土工は殆んど韓国人であった。石森氏の父は、海軍省—三木組からの仕事を、現場監督として韓国人を使ってやっていた。」とのこと。掘っていたのは艦政本部地下壕です。

この話を先の御厨氏の話と重ねあわせると、この三木組は鉄道工業の下請け会社のひとつのようです。日吉に事務所を新しくつくったということなので、本社は別の所にある中堅の土建会社だったのではないのでしょうか。150人を収容する飯場があったわけで、同様な飯場があちこちに建てられていたのだらうと思います。

⑥三木組で働いた金仁圭(キムインギュ)氏の話

『朝鮮人強制連行調査の記録 関東編1 神奈川・千葉・山梨』(柏書房)には、実際に日吉の地下壕工事で働いていた朝鮮人労働者の聞き取りが収録されています。金仁圭氏は「19才の1942年5月に間組の募集に応じて日本に来た。」はじめは十和田湖の焼山ダム工事で「食べるものは…ほとんど豆カス。おかずは鱒の薄い塩漬けが一切れだった。」「飯場の生活では日本人はすべて監視役だった。スコップやツルハシですぐに殴っていたよ。自分も、けんかで仕返しをしたらスコップの柄が折れるほど殴られた。」「横浜の日吉台の軍用地下壕掘り、そして横須賀の追浜でも軍用地下壕掘りをしたね。」「自分たちの労賃は1円50~60銭だったかな。」と書かれています。

この本には寺田貞治さんの聞き取り記事もあり「1944年の末から約3カ月間、三木組で地下壕掘削に従事した金仁圭氏」と書かれています。日吉では「親方はひどい男で賃金も安かった。落盤事故で倒れ、トロッコの線路に口をぶつけ、前歯が数本折れた」そうです。

また寺田さんの記事には「保福寺の南(現在、慶應のテニスコートがある所)に朝鮮人労働者の飯場があり」とも書かれています。

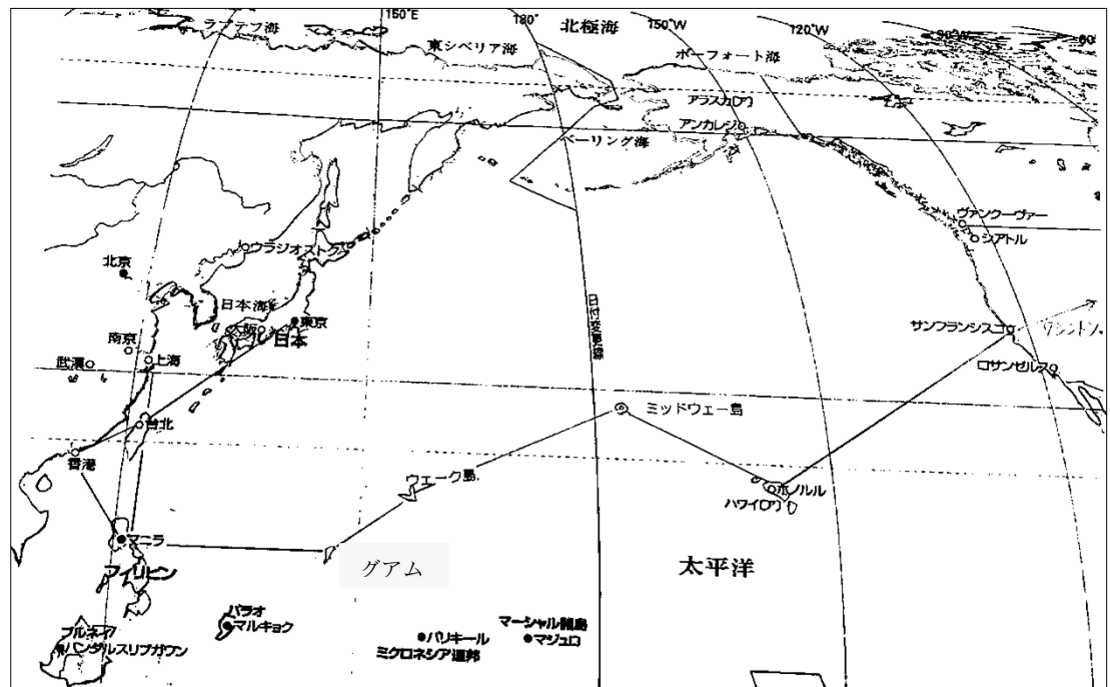
連載

海外の戦跡めぐり(25) 最後の日米交渉を賭けた太平洋横断飛行
(羽田~ミッドウェー島~アメリカ) 運営委員 佐藤宗達

1942年(昭和17年)6月ミッドウェー海戦が起こると海軍軍人は「ミッドウェーはどこだ」と地図をひっくり返したと云われている。はたしてそうだったのだろうか。ミッドウェー島は太平洋の重要拠点であり海軍軍人は認識していたと思われる。1898年キューバ独立運動にからみ米西戦争が起こりアメリカが勝ってフィリピン、グアム島が割譲された。

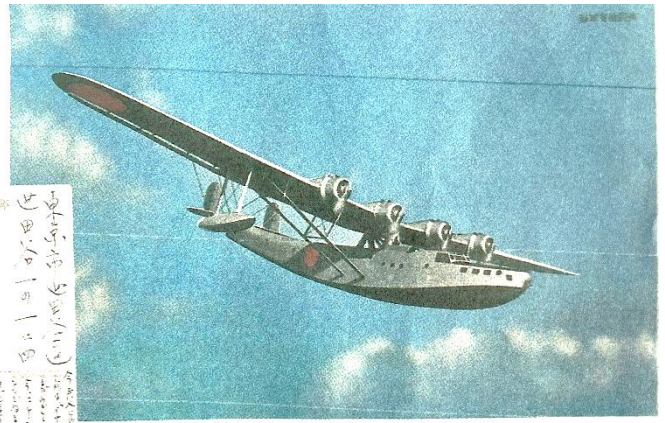
アメリカとフィリピンとの通信手段として海底ケーブルが敷設されることになり1903年、米国西海岸(サンフランシスコ)~ハワイ(1898年アメリカに併合され準州となった)~ミッドウェー島(1900年海底ケーブル敷設調査船を派遣、1903年アメリカ海軍管理下におかれた)~ウェーク島(1899年ケーブル敷設基地としてアメリカが領有宣言)~グアム島~マニラ間が開設された。1906年にはマニラ~上海間が開設、太平洋横断ケーブルが完成した。1935年このルートに沿ってパンアメリカン航空が大型飛行艇(通称チャイナクリッパー)による太平洋横断便を就航させ1937年にはマニラ~香港間が延航された。

1941年、日本とアメリカは戦争を回避すべく和平交渉を進めたが思うように進展せず日本側は駐米野村大使を支援すべく来栖特命全権大使を派遣することにした。海路では2週間かかるので太平洋横断飛行艇を利用することとした。





マーチン M130 : マーチン社が製造し 1934 年に初飛行した大型 4 発飛行艇。パンアメリカン航空 (パンナム) からの発注は 3 艇のみであったが、そのうちの 1 号艇が「China Clipper」と命名されたため、一般にはこちらの名称が有名。



昭和十六年十一月五日
トラックーパラオ間朝潮機上にて中島桓君へ

日本が開発した「川西式四発飛行艇」
「中島敦 父から子への南洋便り」から転用

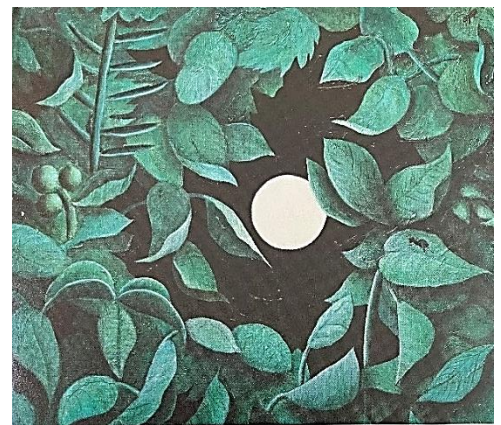
11月5日羽田発台湾経由で7日香港発、同日マニラ泊、8日グアム泊、9日ウェーク泊、10日ミッドウェー着エンジン不調のため2日滞在。12日ホノルル泊、14日サンフランシスコ着、飛行機を乗り継いで15日ワシントンに到着した。

その後の両大使による交渉も進展せず、ハル・ノートを突きつけられ日米開戦となった。日本軍は12月8日ハワイ空襲、グアム島攻撃(12月10日占領)ウェーク島攻撃(12月23日占領)そして1942年6月5日ミッドウェー島を攻撃したが海戦で大敗を喫し、以後アメリカ軍が主導権を握ることとなった。

「秘話」1941年11月、2頭のパンダが太平洋を横断しています。蒋介石重慶政府はアメリカの軍事物資・支援物資へのお礼に2頭のパンダを贈る事とした。11月9日重慶で受け入れ先のニューヨーク・ブロンクス動物園の飼育員に渡され、香港に移動、マニラに空輸された(パンナムの飛行艇かどうかは不詳)。マニラからハワイへは海路輸送された。到着してみれば日本軍の攻撃を受けた直後で、負傷者輸送の船に便乗してサンフランシスコ着、ニューヨーク・ブロンクス動物園には30日着、大歓迎を受けた。時は移り昨年、中国は各国に貸し出したパンダの返還を求め、ワシントン動物園のパンダの親子3頭が空路中国に里帰りしました。

書籍紹介

現在、二つの戦友会や慰霊祭の「お世話係」をしている。遺族でも家族でもない部外者がそのような役目を担ってよいのかと自問しながらも、部外者だからこそしがらみがなく出来ること、見えてくる世界もある。心の奥深いところに澱のように溜まっているものを見逃さないように目を凝らし耳を傾けてみると、じわじわと浮かびあがってくる諸々の感情を、この機会に擲り上げてみようと思う。戦場体験者が何を思って戦後社会を生きてきたのか。慰霊祭や戦友会に集う遺族や帰還兵の家族の思いは一枚岩ではない。(本文より)



生きた歴史に触れる
戦友会の「お世話係」が見た
“終わらない戦争”

遠藤美幸

生きのびるブック
定価(本体2,300円+税)

元兵士と家族をめぐる
オーラル・ヒストリー

悼むひと

お知らせ

第17期ガイド養成講座のご案内

～戦争遺跡を案内する平和の語り部になろう～

慶應大学日吉キャンパスの地下に広がる戦争遺跡・日吉台海軍地下壕のボランティアガイド養成の**実践講座**です。過去の戦争遺跡を保存するだけでなく、二度と悲惨で無謀な戦争をくりかえさないために活用していくには、ガイド活動が不可欠です。物言わぬ遺跡をガイドし多くの方に見学してもらい、日本の戦争の過去を今に語り伝えましょう。この活動をいっしょにやってみませんか？

2024年度(第17期) 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

第1回 4月13日(土) 13時～15時半 慶應大学来往舎・中会議室

《私たちのガイド活動》保存の会の歩み・活動 見学会の進め方

☆定例見学会 4月27日(土)、5月8日(水) 13時日吉駅前にガイド・受講者集合

※毎月行っている定例見学会に、**実習**として都合のいい日に参加。

第2回 5月18日(土) フィールドワーク 13時～16時 東横線日吉駅前に集合

《キャンパス外から見る海軍地下壕群》 日吉台の外周めぐり

☆定例見学会 5月25日(土) 13時日吉駅前に集合

第3回 6月8日(土) 13時～15時半 来往舎・中会議室

《日吉の地下壕と海軍の動き》 パワポ映像での地下壕説明 連合艦隊司令部は日吉で何をしていたのか 地下壕の築造方法

☆定例見学会 6月12日(水) 6月22日(土) 7月10日(水) 13時日吉駅前に集合

第4回 7月13日(土) 13時～15時半 来往舎・中会議室

《まとめ》 「ガイドの手引き」説明 私たちのめざすもの——「語り継ぐ」とは？
フリーディスカッション、修了証授与

参加費 2000円(全4回分)

申込先 メールまたは電話で、①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号を、
下記「ガイド養成講座」係へお申し込みください。問い合わせも下記へ。

メール：hiyoshidaichikagou@gmail.com

TEL：080-5612-6344

ガイド養成講座係：佐藤
※留守番電話になっていましたら後ほど折り返しお電話いたします。

講座定員 20人で締切り

※会場は慶應大学日吉キャンパスのイチョウ並木道先、左側の来往舎2階です。



聴覚障害者の見学案内 手話通訳さんと文字プレートを使って
(2023.11.8)

活動の記録

2023年10月～12月

- 10/7(土) 地下壕見学会 田園調布学園大学長岡・米山ゼミ 19名
 10/11(水) 定例見学会 20名
 10/13(金) 会報155号発送(来往舎小会議室)
 10/17(水) 地下壕見学会 日吉学 36名
 10/20(金) 地下壕見学会 経済学部日本語 IVC 18名
 10/21(土) 講演会 福澤諭吉記念 慶應義塾史展示館 2023年企画展「慶應義塾日吉
 キャンパスをめぐって」講師 吉田鋼市氏(横浜国立大学名誉教授)
 聞き手 阿久澤武史氏(慶應義塾高等学校校長・日吉台地下壕保存の会会長)
 (慶應義塾高等学校日吉協育棟日吉協育ホール)
 10/22(日) ガイド学習会(日吉地区センター)
 10/28(土) 定例見学会 23名
 11/2(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
 11/8(水) 定例見学会 35名
 11/11(土) 地下壕見学会 鎌倉学園中学校1年生 21名
 11/25(土) 定例見学会 42名
 12/7(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
 12/8(金) 会報の印刷を依頼していた「ワコー」廃業にあたって
 「シュープ rint」への引継ぎ、慰労(菊名フラット)
 12/13(水) 定例見学会 24名 保存の会忘年会(来往舎ファカルティラウンジ)
 12/16(土) ガイド学習会(日吉地区センター)

12/20(水) 地下壕見学会
 慶應義塾高校3年生

(長野先生クラス) 58名

12/23(土) 定例見学会 23名

○地下壕見学会について
 定例見学会は毎月2回 第2水
 曜日・第4土曜日午後(13時30
 分～16時)

★3月迄は締め切りました!

○学校関係(学術・教育)の見
 学は定例以外にもご相談で実施
 しています。



定例見学会(第一校舎) 2023.12.13

○お問合せ・申込みは見学会窓口まで Tel・Fax 045-562-0443 喜田(午前・夜間)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 Tel 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 Tel 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口二千元以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
 代表 阿久澤 武史 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会